第 17 章
国内外の都市との交流

●友好交流協定締結の状況

豊後大野市は、国内外合わせて5つの都市と友好交流協定を締結しています。

（国内）

- 東京都台東区:昭和62(1987)年12月(旧朝地町)

（国外）

- 中華人民共和国湖北省荊州市荊州区:
  平成6(1994)年9月(旧三重町)
- 大韓民国全羅北道益山市:平成17(2005)年8月
  (豊後大野市)
- 大韓民国釜山広域市機張郡:令和6(2024)年10月
  (豊後大野市)
- ネパール連邦民主共和国ルンビニ県グルミ郡ムシコット市:令和7(2025)年5月(豊後大野市)

●それぞれの交流の経緯や交流内容

【東京都台東区】芸術を介した友情と信頼

- 東京都台東区との友好都市の締結・交流 -

豊後大野市朝地町出身の彫塑家、朝倉文夫が 61 年間を暮らした東京都台東区と、昭和 62(1987) 年 12 月 10 日に友好都市を締結しました。

調印式では、「朝倉芸術を介した友情と信頼で、さらに友好を深め活力に満ちた豊かな地域づくりを誓います」と宣言し、友情の絆がしっかりと結ばれ、現在文化交流や人的交流、物産交流などを行い、友好を深めています。

旧朝地町と台東区との交流事業一覧 (主なもの)

昭和 62(1987) 年 12 月 10 日
　朝地町・台東区友好都市提携宣言
平成 3(1991) 年 3 月
　朝倉文夫記念公園開園 (台東区協賛)
平成 6(1994) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (深山神楽座)
平成 7(1995) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (青年神楽座)
平成 8(1996) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (若宮神楽座)
平成 9(1997) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (青年神楽座)
平成 10(1998) 年 7 月
　台東区小学生ホームステイ交流招致
平成 15(2003) 年 7 月
　朝地小児童　台東区ホームステイ訪問
平成 16(2004) 年 7 月
　朝地小児童による台東区訪問



友好都市締結30周年記念植樹 (平成29 (2017) 年11月)

【中国荊州区】農村交流から友好交流都市に

- 豊後大野市と中国荊州区との交流の経緯 -

三重町と中国湖北省荊州市荊州区 (旧名：湖北省江陵県) とは昭和 61(1986) 年 9 月に友好姉妹農村提携に合意し、これまで幅広い分野で多彩な交流を実施し、実を結んできました。

平成 3(1991) 年に「日本国大分県三重町と中華人民共和国湖北省江陵県との友好姉妹農村の促進に関する覚書」を交わし、平成6(1994)年9月26日には「友好町、県関係締結に関する議定書 (友好姉妹農村)」を締結し、両地域の永遠に渡る善隣友好関係の発展と世界平和に寄与することを約しました。

また、三重町と中国荊州区は隔年に相互友好訪問を実施しており、昭和 60(1985) 年からこれまで、三重町から荊州区には 10 回、荊州区から三重町にも 7 回訪問しています。

この間、平成 4 年からは、ほぼ隔年で 7 回、荊州区の農業研修生を受け入れ、町内の農家等で実習研修を行い、近代的な日本の農業等の状況を学ぶと共

に、両地域の友好と相互理解を深め、双方の農業等の発展に寄与しています。

また、平成 17(2005) 年 3 月 31 日、豊後大野市が本事業を引き継いでから平成 21(2009) 年までに、本市から荊州区へは 2 回、また荊州区から本市へ 3 回の訪問を行うと共に、荊州区の研修生の受入を 1 回行っています。

平成 30(2018) 年 12 月 18 日に豊後大野市にて荊州区と豊後大野市の友好会談を行い、覚書を交わしています。

その後、令和 2(2020) 年 2 月には 11 年ぶりとなる訪中を予定していましたが、新型コロナウイルスの発生により延期を余儀なくされました。

同年 2 月 20 日には、荊州区へ支援物資として医療用マスク 1 万 200 枚、防護服とマスクのセット 120 組を贈っています。そのお返しを受ける形で、同年 5 月 11 日、荊州区から医療用を含むマスク 6 万 3,000 枚と医療用防護服 1,000 着を寄贈いただきました。

その後は、コロナ禍のため交流が途絶えていましたが、令和 7(2025) 年 5 月 25 日、豊後大野市制施行 20 周年記念式典に合わせ、荊州区訪問団 3 名の方をお招きし、友好交流会談を行いました。同年 10 月には本市から 4 人が荊州区を訪問しています。

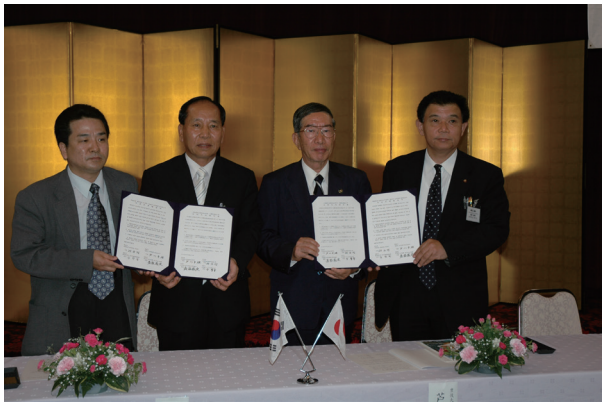


市制施行20周年記念レセプション(令和7(2025)年)

【韓国益山市】共通の説話を通じて友好交流都市に

- 豊後大野市と大韓民国益山(イクサン)市 -

大韓民国益山市には、三重町に伝わる「真名野長者伝説」と同様の説話があり、その共通説話を通じて、旧三重町は益山市と文化面での交流を続けてきました。その交流が実を結び、平成 17(2005) 年 8 月 22 日、豊後大野市において韓国益山市と友好交流協定の調印式が行われました。


友好交流協定書調印式(平成17(2005)年8月)

調印式には、豊後大野市長、益山市長らが出席。「地方自治体として長期的な視点に立って、国際的な枠組みの中で地域の発展を目指し、お互いの信頼関係のもと、誠実に交流事業を実施するものとする」などを内容とする協定書に調印しました。

そもそもの発端は、旧三重町が平成 13(2001) 年に立命館アジア太平洋大学 (APU) と友好交流協定を結び、学生らが同町でフィールドワークや研究発表をするなど交流を進めてきたことに始まります。

研究･交流の中で、大韓民国出身の金賛會(キムチャンフェ)教授が、「町に残る『真名野長者伝説』は、益山市に伝わる百済時代の『武王説話』と酷似している。おそらく 1,500 年以上前、大和朝廷と百済の交流で、同じ起源を持つ説話が海峡を越えて両自治体に残ったのでは」との見方を紹介しました。

そのことを機に、それぞれの伝説研究者がお互いを行き来し、文化分野での交流を進めてきたことが調印につながりました。

＜大韓民国全羅北道(チョンラブクドウ)益山市＞

益山市は、全羅北道南西部に位置し、面積は約 505㎢、人口は約 27 万人 (2023 年現在) の自治体です。

7 世紀、百済の武王が創建したと伝えられる、韓

国で最も大きく古い弥勒寺址石塔 (国宝) などが残る由緒あるまちとして知られています。2015 年には、益山の弥勒寺址、王宮里遺跡などを含めた周辺一帯が百済歴史遺跡地区としてユネスコ世界遺産に登録されました。

また、益山は全国各地を繋ぐ便利な交通網と国家食品クラスターが造成された産業都市で、2015 年 4 月には韓国高速鉄道、KTX 湖南線が開通して、ソウルまでの所要時間は約 1 時間となっています。

＜真名野長者伝説とは＞

真名野長者伝説は、貧しい炭焼き小五郎が神のお告げで都から来た玉津姫と結ばれ、沢山の黄金を発見して真名野長者になったという言い伝えで、豊後大野市三重町内山にある蓮城寺は真名野長者が建てたものと伝えられています。

一方、益山市武王説話に登場するのは、炭焼きではなく薯掘りの男ですが、善花姫が黄金を見せると「こんなものは薯掘りの場所にいくらでもある」と男が答える部分など、真名野長者伝説と類似点がたくさんあります。

【韓国機張郡】中学生から一般まで、幅広く草の根的な国際交流

- 大韓民国釜山広域市機張郡との交流 -

旧清川村では、人材の育成と国際化する社会への対応等を目的として、国際交流事業を行ってきました。

清川村にとって最も身近で親睦の深い、またスポーツ交流 (剣道) などでゆかりのあった、韓国釜山広域市機張郡長安邑 (村) との交流に重点を置いて取り組んできました。

中学生は毎年、一般の方は隔年で行き来を行う「ホームステイ事業」は現在も続けられ、互いの文化や生活の違いなどを身近に感じられる良いきっかけとなっています。

交流の成果は、顕著に表れています。

平成 15(2003) 年 10 月に韓国全土に著しい被害を与えた台風 14 号により甚大な被害を受けた長安邑に対し、清川村全体で 50 万円を超える義援金が集まり、交流の成果が確認され、その絆を深めました。当時韓国のマスコミでも「国境を越えた支援活動」ということで取り上げられました。

また清川村のシンボルとも言える御嶽神楽は、平成 16(2004) 年 11 月に長安邑で初の海外公演を果たし、1,000 人以上もの観客に、日本の、そして清川村の文化を伝えることができました。

そのほかにも中学生同士の交流を契機に、その保護者同士で今なお交流が続いていたり、一般のホームステイ交流がその後も個人的に続くなど、清川村が当初から目指した「心の交流」といったものが形成されています。



中学生国際交流事業の歓迎式典の様子

これらの地道に、かつ、長期にわたって形成してきた交流活動が、平成 15(2003) 年 9 月に交わされた「友好協力宣言」につながり、その後豊後大野市にも引き継がれています。

豊後大野市に引き継がれた後も交流は続き、平成 26(2014) 年には豪雨被害を受けた機張郡へ義援金を送付、コロナ禍ではリモートでの交流を実施するなど、お互いの絆をさらに深めていきました。

そして、中学生国際交流事業が 30 周年を迎えた令和 6（2024）年、これまでの長きにわたる交流を記念し、また、これまで以上に両都市のさらなる繁栄と発展を図るため、10 月 8 日、市と郡レベルで新たに「友好交流意向書※」を締結しました。

※「友好交流意向書」

これは機張郡条例に合わせた名称としており、普段よく使われる「友好交流協定書」や「友好交流都市協定書」と同じ意味のものとなります。


友好交流意向書調印式(令和6(2024)年)



友好交流協定書調印式(令和7(2025)年5月)

【ネパール国ムシコット市】双方の地域課題の解決へ

- ネパール国ムシコット市との交流 -

三重町中小坂でキウイ栽培を手がける JNN AGRO㈱のケシ代表取締役がネパール国ムシコット市出身であったことから交流が始まりました。

本市では、基幹産業である農業分野をはじめ、建設関係、福祉関係などの分野においても深刻な人手不足が生じています。

一方、ネパール国では、ムシコット市に限らず全国的な雇用不足により、就労目的による国外への出国者数が増加している状況です。

令和 5（2023）年 11 月、市長以下 5 名でネパール国を訪問し、双方の地域課題の解決に向け、今後考えられる交流のあり方や内容等について調査・研究を行い、今後の交流に向けて協議するため覚書を交わしました。

その後、東京都で開かれたムシコット市人会へ出席するなど、お互いの交流を深めていき、令和 6（2024）年 10 月には、農業をはじめ経済・文化・観光・教育など、幅広い分野における交流と提携を通じて、相互の友好・協力関係を発展させるため、「友好交流協定書」の締結を行う予定でしたが、直前のネパール国豪雨被害の影響により、調印式を延期しました。

令和7(2025)年5月24日、豊後大野市制施行20周年記念式典の来賓としてムシコット市関係者をお招きし、併せて念願であった「友好交流協定書」を締結しました。